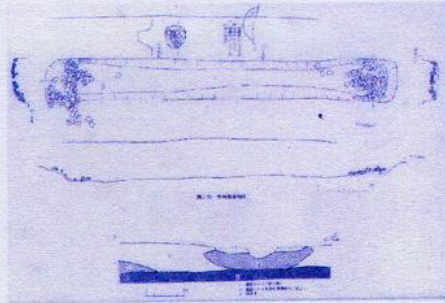


名取の低墳丘墓

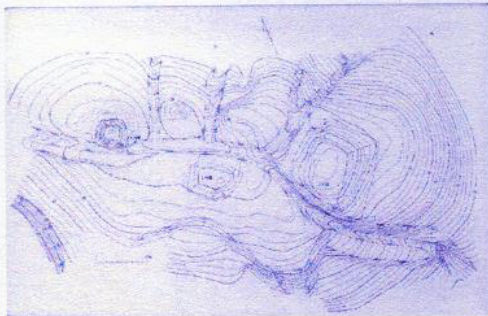
I-8-①



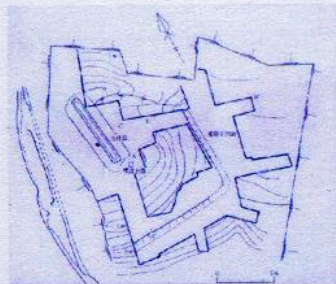
I-8-⑤



I-8-④



I-8-②



I-8-③

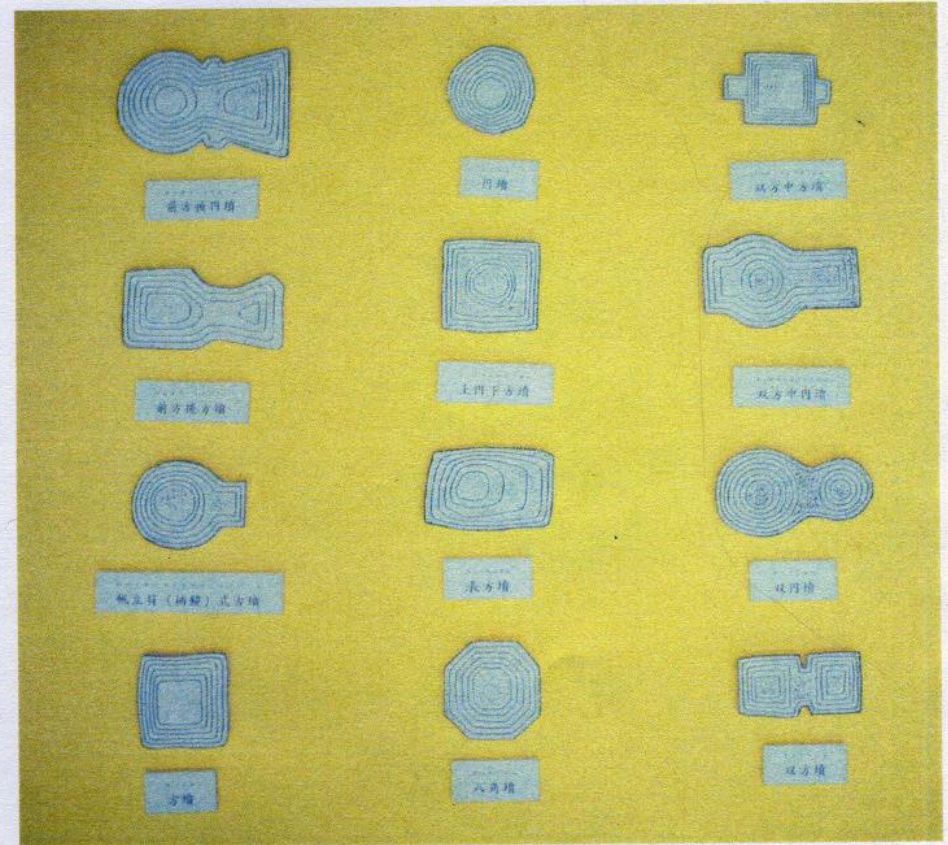
愛島丘陵東端の小豆島(あずまじま)に位置するこの宇賀崎(うがさき)古墳群は6基から構成(けいせい)されています。これらのうち1号墳は、昭和47年に県教委により調査され、大型の割竹型木棺(わけたけがねもくかん)を持ち、一辺20m、高さ2mの方墳であることがわかりました。また、周溝がないこともわかりました。そして、調査当時2・3・4号墳の測量実測図も作成され、これら3基の古墳も方墳であることがわかりました。これらの方墳は、4世紀において、方形周溝墓から前方後方墳に形態(かたい)が変化する時期の低墳丘墓(ていふんきゅうぼ)と考えられています。

割竹型木棺とは：

筒状(つつじょう)の竹を割った形をした棺(ひつせ)のことで、遺体(いんたい)を入れる専用のものです。

I-8-①

いろいろな古墳の形



I-9-①